地方だより

御前崎測候所

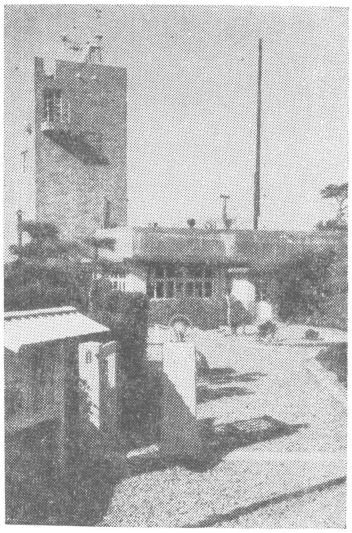

写真 1　御前崎測候所

東海道線菊川駅で下車，御前崎行きのバスに乗ると『田舎のバスはオンボロバスよ』の歌を思いだす．約20粁ガタガタ道を走って終点に着く．ここが御前崎町の中心部である．もっともここ一年ばかりの間に大部分きれいな大型バスに入れ替って了ったが……．主要幹線からわずかにへだたっているため文化に恵まれないこの様な町は全国でも数多いに違いない。台地の先端に灯台があり測候所は小，*められており防波堤の長さも現在は 1,000米に延び，この防波堤の一部に検潮所が完成されつつある．将来は立派な避難港になる筈である．又町内有志によって水族館の建設も計画されている．この半島は駿河湾と海上交通の難所で有名な遠州灘につき出ているので冬期の季節風と低気圧等による悪天の際の避難船は多い時は70～80隻に及び，そんな時には船員が次々と測候所にやって来て熱心に天気変化の成り行きを聞くので応待にもこれらの人達の生命に関わること故苦労をする．又逆に台風が接近している時にはこれら台風近傍の漁船に特に気象通報を依頼することもある．(写真 2)

現在は最新の設備を持った 300屯級の漁船が次々新造され竣工祝の俗にいう『台おろし』が海岸でおこなわれる．仲々盛大で招待客は海岸に作ったやぐらの上でおごそかに御神酒を戴いて，祝餅をなげ，そのあと船員にかつがれて，寒くても海中につき落され沈められるのである．船員達は思う存分に海の災渦の身代り人を塩漬けにして安心して新しく遠洋に出発するのである．漁船乗組員としての訓練は中学校の体育に折り込まれ，校庭の一隅には船型を模した鉄筋台があり，この上で**かつを**型の砂嚢を竹竿の先につけたのを掛声勇ましく動かす**かつを**つり体操を実施するのである．(写真 3)

夏は絶好の海水浴場となり港祭りがあって沢山の花火があがる海辺でゆかた姿の美しい娘さんや主婦が御前崎音頭でおどる情緒も亦忘れがたい．又晴れた視程の良い日には富士山，日本平が見え，伊豆の山々が横たわり絵にしたくなるが，一度冬の季節風が吹き出せば連日10mを越え夏日の楽しさは何処へやら，その寂寥と無聊は想像以上であり雲を雨を慾しくなる。

(1957年12月柴田宣記)

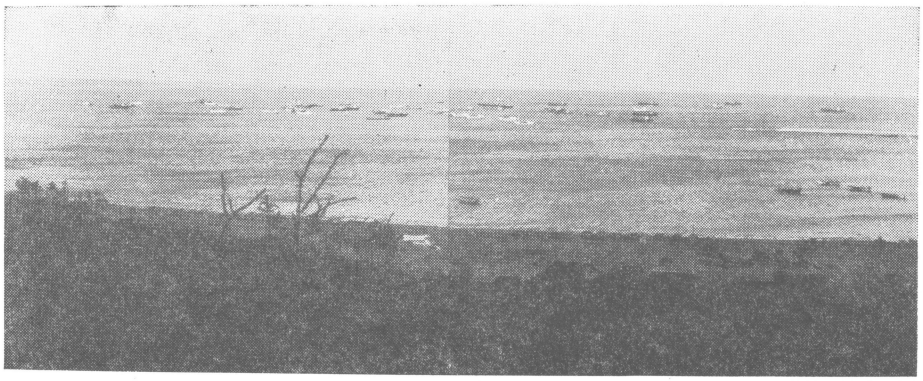

写真 2　御前崎港における避難船

* 中学校，郵便局，製茶工場，農業会等の建物と同様に町の中央に位置する．(写真 1)

住民の大半は漁業に従事し，しかも遠洋漁業なので留守家庭を守るのは主婦で，全国でも珍らしい女子消防団を組織しており，黒のもんぺ姿に赤だすき白はち巻のいでたちは見事なものである。最近の映画で灯台をテーマにした木下恵介監督の『喜びも悲しみも幾歳月』にはこれら女子隊の竹やり隊を見られた方も多いでしょう．終戦頃にはB29の侵入路に当りこの台地も相当に機銃攻撃を受けたと聞く．

当町所属の遠洋漁船は30余隻もあり年間水揚げは10余億円，遠く南太平洋，印度洋に出かけ御前崎漁業無線局を通じて気象協力の依頼があるので，この種業務の多いのは当所の特徴でもあり，測候所の調査研究も海に関して努力が払われている．御前崎港の建設は7年前から進

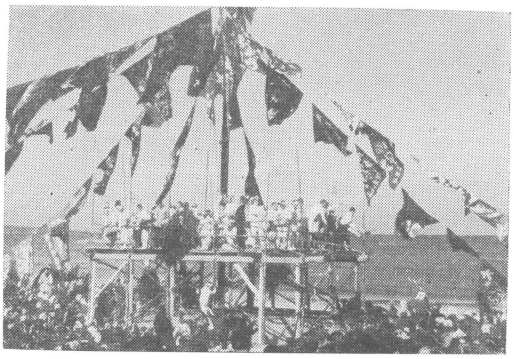

写真 3 「台おろし」の餅なげ